

①今回の留学の目的として異文化交流で楽しみ視野を広げると中国語の上達の二つを目的としていました。自分の目的は達成できたと思います。異文化交流は、とても内容が充実していて楽しかったです。例えば、文化の違いによる性格の差、兵役による問題など、台湾に住んでいるからこそその話をたくさん聞くことができました。また中国語での単語や翻訳を使つての簡単なコミュニケーションもできたので、勉強へのモチベーションにもつながりました。これからも交流を継続していきお互いの成長と友人関係を良くしていきたいです。

もう一つの中国語の上達ですが、現地での発音や会話の組み立てなど基礎的なことをしっかり教えてもらったのでとても充実した語学研修でした。勉強したうえでまだまだな点や勉強するうえでのポイントなどもわかったので、これからの中国語の上達につなげていきたいです。

②今回の留学前後の自分の意識の変化は、全体的に大きいです。最初に留学に対しての意識ですが、留学を楽しんで自分のことをしっかりする立場ではなく、留学経験を生かして人に教え自分から動いてアドバイスをするという立場になったということを実感しました。去年に台湾に留学しているという立場もありましたが、今回海外に行くのが初めての人も参加していたので、自分の経験を活かしたアドバイスをすることが多かったのです。不安になっていることへのメンタルケアや、環境が変わったことによるストレスケアなど、上手くできたのかはわかりませんが行動としてできたと思います。行動としてできたことにより自分の長所と言えるのが、環境に対してのストレス耐性が強いということがわかりました。今回の留学で自分は一番楽しんだ留学生だと思います。そのくらいストレスがなく楽しんだことが多かった文化体験と国際交流でした。また、留学のプログラムを作ってくれた様々な人や学校に感謝するとともに、自分も留学やプログラムを手伝えるような仕事を考えるようになりました。この意識を作れたのはまだ就職先を決めていない自分にとって大きい意識変化だと感じます。旅行会社なのか大学の事務なのかはわかりませんが業界研究をしたいと思います。

今回の留学の一番の課題としては、緊急時の冷静な判断と行動です。今回留学参加の学生が1人肺気胸により入院することになりました。結果は無事帰国することができました。今回のパターンとして海外での、また留学時の緊急事態の時、だれに連絡し、どのように行動することをしっかりやらないと事態は悪化することになります。今回私はその点ができなかったです。パニック状態になり自分は何をしなければならぬのかを冷静に判断、行動に移せなかったです。この失敗の経験は次に活かさなければならぬと強く感じています。

学習についての意識は高くなりました。中国語の会話が聞く機会が多かったので発音に対して自分がどれだけできていないのかを知るきっかけになりました。また勉強するうえでのアドバイスもいただいたので学習意欲は高くなりました。中国語を勉強するうえで自分の仕事への視野は難しくモチベーションとしては少し違うと感じました。意識として台湾の友達と話したいということやまた来た時にもっと文化について知りたいというモチベーションが強いのです。なので、中国語の勉強を楽しく継続を目標に頑張っていきます。

国際理解についてもさらなる視野を広げることができました。留学前も台湾の歴史や文化を少し

勉強しましたが実際に台湾に住んでいる人から話を聞いたほうが日本との違いを実感でき、また楽しかったです。国際理解で自分が大事にしていることは、食わず嫌いにならず体験して日本との違いを楽しみ、尊重することにあります。この考えは今回の留学でも活かすことができ、国際理解を、会話、体験、食事など様々な点で深めることができました。この経験を台湾や海外留学には興味があるけど不安という人に話をぜひ参加してもらいたいです。そのような手伝いは積極的に参加していきたいです。

③今後の長期留学の意欲は高いです。自分は東北工業大学での留学は3回目ですが毎回、人間的成長をしていくのを実感できます。自分の人生の視野や参加するうえで関わったすべての人との交流は、自分が大学生活を充実していると言える理由になっています。これから就職活動や卒業論文もありますが、面接で話せる経験や卒業論文書く上での問題意識にもつながっています。また何よりも楽しいということが一番です。行きたい留学先はなく新しい国、行ったことある国でも新しい発見を見つけていきたいです。なので、今後も留学の情報を拾っていき、時間を作って参加したいです。

留学報告レポート:玄奘大学(台湾)「中国語・文化研修」に参加をして

経営コミュニケーション学科

3年 村上 皓海

①留学目的の達成度

留学の目的は、「日常会話程度の中国語を身につける」、「台湾の文化を学び・理解し、日本の文化も伝える」、「自分の視野を広げる」であった。授業では、中国語の基本的な声調や発音を教わった。授業で学習したことを台湾の友達に使って通じるかということをし、自分なりに応用していた。しかし、先生と友達が中国語での日常会話を理解するレベルまで上達することは出来なかった。

この研修期間で台湾の文化を学ぶことができた。朝食は自宅では食わず、朝食屋さんで買って食べる。そのポピュラーなメニューはタンピンとトウジャンであること。ご飯を注文するときは自分で伝票に書き込み、注文すること。結婚した後でもお互いの苗字は変わらないこと。その他お寺や神社での振る舞い、おみくじのやり方など、書ききれないほど台湾の文化を先生や友達に教えていただきました。逆に、台湾の友達には日本語、文化を教えました。主に、仙台の気候や名物の話をしました。

台湾の友達や先生と話をしていくにつれ、台湾の人は本当に日本が好きなのだ改めて実感することができた。チューターをしてくれたジェンハンは日本のことがとても好きで日本のドラマやアニメを中国語の字幕付きで見て楽しみ、同時に日本語の勉強もしていると話してくれた。日本のドラマやアニメが台湾で有名でよく見られているということをうれしく感じた。また、ドラマやアニメを有効活用し、日本語を積極的に勉強している姿がとても印象的で前向きだと感じた。台湾の学生を通じて新竹や台北のことを数多く教えていただいた。その出会いで台湾に対する知識を増やすことができ、自分の視野も広げることができた。

②留学、学習、国際理解への意欲に関する留学前後の意識の変化

昨年度の2月にチャレンジアブロードプログラムでオーストラリア研修を行ったということもあるが、今回の台湾研修の参加は個人的に意欲的だったと思う。前回台湾研修に参加した方から、英語より日本語のほうが通じる、と話を聞いていたため、簡単な挨拶だけ覚えて台湾に行った。しかし、実際のところ中国語で先生と生徒が会話してそれを翻訳して私たちに教えてくれるという過程が多く、力不足だと感じた。帰国後は中国語勉強しようという意欲がわいた。10月に池田先生を含む玄奘大学の方々がくるため、中国語上達したなと思われるようにすることが今後の目標である。

③今後の長期留学の意欲

今年から就職活動があるということもあり、参加は難しくなってくるとおもうが、海外に対する関心はこの台湾研修でさらに高まったため、海外を訪れる機会があれば訪れたい。

留学報告レポート:玄奘大学(台湾)「中国語・文化研修」に参加をして

経営コミュニケーション学科

2年 森 遼馬

①私は2週間のプログラムの中で沢山のことを学ぶことができた。日本と台湾の文化の違いや言語が異なる環境での生活の違いなども知ることができた為、留学目的を概ね達成できたと思う。

②台湾に留学する前の私は、台湾に行って文化や言語を学びたいと考えていたが、現地で多くの観光地に連れて行ってもらった。台湾の建物の中には日本が昔使っていたものをそのまま使用しているものがあった。この事実を知り、日本と台湾の関係についてもっと勉強したいと思った。また、玄奘大学で知り合った友達のなかに日本語を上手に話す方がいた。そこで、私も学んだ中国語を使った。コミュニケーションが取れた時はとても嬉しかった。その時、中国語の発音がとても難しいと感じた。次、台湾に行く機会があれば少しでも話せるようになりたいと考えている。私は1年生の時に中国語の授業を受けていたが、現地の人と話すとスピードが速かったため聞き取ることができなかった。この経験からわかったことは、言語は意味を知ることだけではなく会話が成り立つように使えなければ意味がないと分かった。また、現地の学生は日本の文化に興味を持っていた。台湾では、日本のテレビ番組が放送されていた。私はほかの国のことをよく知らなかったことに気が付いた。これからは、台湾のことについて興味をもって生活をしていきたいと考えている。

③今回のプロジェクトの途中で私は肺気胸にかかってしまった。キューフンに行くことができなかったのも、また機会があれば行ってみたい。また、台湾以外の国にも留学してみたいと私は考えている。外国に行くことで日本にはない文化を学ぶことができるので、留学はとても貴重な経験であると感じた。台湾で学べたことをこれからの生活に活かしていきたい。

留學生活全般

8月7日の夕方、無事に台湾に到着した。その日の夜は、台湾風のしゃぶしゃぶを食べました。台湾のしゃぶしゃぶは塩味のスープに具材を入れた。日本の一般的なしゃぶしゃぶの食べ方と異なった。夕飯を食べた後、寮に行きました。ひとつの建物の中に男性専用と女性専用の部屋があったため、玄奘大学の寮はとても広かった。また、台湾の夜は暑かったため冷房が必要だった。8月8日の午前中は中国語の授業があった。発音と単語、文法を学習した。中国語の発音には、日本人が普段使わない母音があるため慣れるのに時間がかかった。その日の夕方は新竹の夜市に連れて行ってもらった。夜市では、フルーツジュースを販売している店、臭豆腐を使った料理を販

売しているお店と様々なジャンルのお店が出店していた。夜市の食べ物の値段は30元～100元であり、安い価格で売られていた。

私は現地の小籠包を食べて感動した。理由は、一つのせいろの中に8つ小籠包がはいっており、とても満足感があつた。さらに、値段も60元であつた。台湾の食べ物は安い値段でおなかいっぱい食べることができた。

8月13日、玄奘大学の先生に九族文化村に連れて行ってもらつた。移動は先生の車だつた。台湾の高速道路は3車線で右側通行であつた。また、台湾の車は左ハンドルで、ナンバープレートは日本のものと異なつた。

九族文化村では、台湾の原住民の暮らしについて学ぶことができた。私は、日本の縄文時代の暮らしに似ていると考えた。

8月14日、日月潭に向かつた。日月潭は台湾最大の湖でとても美しかつた。日月潭はとても広いので、車で移動する必要があつた。日月潭の周辺は旅館やおみやげ店もあり、観光地のものであつた。その日の午後は台中に行つた。台中は飲食店がとても多く、沢山の人が賑わつてゐた。その日の夕食は台湾式のしゃぶしゃぶであつた。台湾での生活に慣れてきていたので、調味料の好みが変わつた。また、その日の夜は、豆花というデザートを食べた。それは、甘いシロップの中になめらかな豆腐が入っているものである。

台湾のタピオカミルクティーは現地の人も好んで飲んでゐた。タピオカミルクティー以外にも紅茶や芋のジュースがあつた。台湾にはドリンクショップがたくさんあり、店によって売られているものが異なつた。また、台湾のおやつといえばかき氷である。台湾はフルーツが沢山とれるため、マンゴーかき氷が有名である。

8月16日、私たちは高速バスに乗つて台北に行つた。台北は交通量がとても多く、人口も多い。台湾の人達はスクーターをよく利用するため、道路が混雑してゐた。また、新竹では路上駐車が禁止されていないが、台北の中心街では禁止されている。私たちは故宮博物館での展示を見た後、夕食を食べに夜市へ向かつた。私はその時、体の調子が悪くなつたため病院へ行つた。

台湾の医療はレベルが高いと聞いていたので安心して手術を受けることができた。私は、入院をしてしまつたが貴重な体験ができたと考えている。今回のプログラムに参加したことで日本のよいところ、台湾から学ぶべきことに気が付いた。今回の経験をこれからの生活に活かしていきたい。